

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 御言葉に耳を傾け、心を主に向けましょう。
- *賛美 53番
- *交読文 20番
- *使徒信条 会衆一同
- *頌栄 107番
- 礼拝のための祈り 川合ゆきえ姉妹
- 賛美 257番
- 聖餐式 賛美281番
- メッセージ ノア - 神をなだめ平和を実現した礼拝者(創世記8章)
- 御言葉を適用する祈り .. 会衆一同
- 賛美 259番
- 献金感謝の祈り パスター
- 報告と歓迎
- *主の祈り 会衆一同
- *祝祷 パスター

祈禱課題

- ・この教会が神の御声を聞いて御心を行う教会となるように
- ・病、貧しさ、悲しみの内にある兄弟姉妹のために
- ・兄弟姉妹達がキリストの香りを豊かに世に放ち、仕事、事業が祝福されるように
- ・主に忠実で御霊に満ちた奉仕者が70名与えられるように
- ・終末の災いに実際に直面している兄弟姉妹の守りのために

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

____はキリストにあるならば、新しく造られた者である。
 古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである。しかし、すべてこれらの事は、神から出ている。神はキリストによって____をご自分に和解させ、かつ和解の務を____に授けて下さった。
 すなわち、神はキリストにおいて世をご自分に和解させ、その罪過の責任をこれに負わせることをしないで、____に和解の福音をゆだねられたのである。
 神が____をとおして勧めをなさるのであるから、____はキリストの使者なのである。
 そこで、キリストに代って願う、神の和解を受けなさい。
 神は____の罪のために、罪を知らないかたを罪とされた。それは、____が、彼にあって神の義となるためなのである。(2コリント 5:17-21)

かつて、ノアとその家族を除く全人類は主の御前に甚だ悪くなり、主はノアの家族と、全生物のつがいとを取って、箱舟の中にかくまい、それ以外の全生物は、全て水によって滅ぼされた。地球全体が大いなる死の水で覆われ、その上にぼつんと浮かぶノアの箱舟はとても心もとない存在である。その中の狭い空間に閉じこもり、外の状況は全く見えず、箱舟の内壁しか見えない状況でただじっと待つ日々は、神様に見捨てられてしまったかのように思えたかもしれないが、神は、箱舟の中で息をひそめているノアと、生き物たち全てをしっかりと心留めておられ(8:1)、地のおもてに「風(ルアッハ:息吹、霊)」を吹き巡らせ、死の水を「引かせ(シャカク:中止する、なだめる、和らげる)」られた。
いかに全地に死の水が溢れていようとも、いかに傍らに万人が倒れようとも、神は、その御心に留めておられる全ての人は、陰府に捨ておかず、復活へと導いて下さるのだ。(詩 91:7,16:10)

箱舟は、第七の月の十七日に、アララテの山の上にとどまったが、この日は、キリストが復活された日と同じ日である。同じようにノアと全生物も、いわば、死からの復活を経たのだ。『あなたはわたしを陰府に捨ておかれず、あなたの聖者に墓を見させられないからである。』と書いてある通りである。(詩篇 16:10)
 ノアは、鳩が持ち帰ったオリーブの若枝によって、水が地から引いたのを知り、さらに、箱舟のおおいを取り除けて、地の面が乾いた事を知ったが、彼は自分の判断で出ることはせず、主が命じられるまでは忍耐して箱舟の中にとどまり、神の命令があつてから、初めて箱舟を出た。
 私達も、目で見える所によって判断してはならない。救いの箱舟の扉を開めるのは主であり、その扉を開けるのも、主ご自身である。私達も、主の命じられる時を待つべきなのだ。

ノアが箱舟から出て、新天新地へ降り立った時、一番最初に行った事は、礼拝だった。『ノアは主に祭壇を築いて、すべての清い獣と、すべての清い鳥とのうちから取って、燔祭を祭壇の上にささげた。』(20節)
彼のささげたこの礼拝は、その後の全生物にとって、とても重要な意味を持つものだった。『主はその香ばしいかおりをかいで、心に言われた、「わたしはもはや二度と人のゆえに地をのろわない。』(21節)
 彼は水という死を経、復活の後、神をなだめる全焼のいけにえによって神をなだめ、全生物を執り成した。これは、キリストの予表である。キリストはご自分の血によってただ一度まことの聖所に入り、傷のないご自身を神に捧げ、その香りによって父なる神を完全に宥め、永遠の贖いを成し遂げた。(ヘブル 9:11-15)

「神はノアと、その息子たちを祝福して、彼らに仰せられた。「生めよ。ふえよ。地に満ちよ。」(9:1)
 このノアへの祝福は、創世記1章の祝福に似ているが、違う所がある。1章では人の食べ物**は草木だけだったのが、ノア以降は、生きて動いているものも、食物として許され、また、1章では、全生物にとって、人間は正当な支配者だったのに、ノア以降、全生物にとって、人は、恐れおののく対象となってしまう。**ノアが降り立った新世界は、洪水以前の世界と比べて、大いに違っていた事だろう。
 「大空の上」の水という表現は消え、代わりに「雲」が登場するようになり、また、人の寿命はどんどん短くなり、生物にとっては、より過酷な世界となったのだろう。しかし主は、新しい希望の契約も定められた。
 「わたしが地の上に雲を起すとき、虹が雲の中に現われる。わたしは、わたしとあなたがたの間、およびすべて肉なる生き物との間の、わたしの契約を思い出すから、大水は、すべての肉なるものを滅ぼす大水とは決してならない。」(9:14-15)
 ノアはこうして、信仰によって箱舟を造り、多くのいのちを救って新天新地へとながらえさせ、新しい地に降り立った時には、真っ先に礼拝し、なだめの供え物を捧げて神をなだめ、平和の契約を得た。
 主は、虹を見られるたびに、平和の契約を思い起こされるが、私達は忘れてはならない。
当時の世界は水によって滅んだが、今の天地は火で滅ぼされるために取っておかれ、不信心な者達が裁かれ滅ぼされる日まで、そのままにしておかれる事を。(2ペテロ 3:6-7)
 だから私達も、ノアのように、全ての事を礼拝によって始め、キリストにあって人々を執り成し、祈り、神から遣わされた使節として、キリストにあって神と和解する福音を宣べ伝え、多くのいのちを新天新地へと生き長らえさせる皆さんでありますように！イエス様のお名前によって祝福します！

